

令和4年度 第2回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

次 第

日 時: 令和4年8月26日(金)

午後2時～

場 所: 教育プラザ研修棟3階 大会議室

※オンライン会議と同時開催

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 事

(1) 情報共有の取組について

資料No.1

(2) 令和5年度社会教育の方針作成について

資料No.2

(3) その他

・今後の会議等の日程について

資料No.3

4 閉 会

社会教育委員・公民館運営審議会委員 情報共有の取組について

1 実施目的

コロナ禍での委員活動においては、委員同士の交流の機会が制限され、以前のように各委員の社会教育活動に関する情報交換が行えない状況である。コロナ禍であっても社会教育委員の皆さん同士で社会教育活動におけるヒントや課題、解決策などといった情報を共有し、各自が携わっている社会教育活動等を充実した活動にすることで、上越市の社会教育の推進につなげていく。

2 実施内容

次の流れにより、委員から各種情報や意見・提案等をお寄せいただき、社会教育課で取りまとめたのち、全委員に配布し情報を共有していただくとともに、社会教育課内でも情報を共有していく。

社会教育課

- ・各委員の社会教育活動における課題や悩み、工夫した点、効果を感じられた取組などを記入する「情報共有シート」（裏面参照）を委員へ送付。

社会教育委員

- ・「情報共有シート」を記入し社会教育課へ提出する。
（裏面の「情報共有シート」に書式は限定せず、記入可能な項目のみ記入いただくこととする。任意の様式でも可とする。）

社会教育課

- ・提出された「情報共有シート」を取りまとめ、全委員に配布するとともに、社会教育課にて情報を共有する。

社会教育委員 社会教育課

- ・各委員の「情報共有シート」を参考に、各自の社会教育活動に取り組んでいく。

3 時期

「情報共有シート」の提出は、第2回及び第3回の社会教育委員・公民館運営審議会委員会会議に合わせ、年2回（8月・2月）とする。

令和4年度 社会教育委員・公民館運営審議会委員

情報共有シート

委員名 _____

<p>1. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、課題や悩みなどがありましたらお書きください。</p>
<p>2. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、活動を展開するうえで工夫している点や、課題解決に効果的と感じた取組などがありましたらお書きください。</p>
<p>3. 社会教育委員として、市の社会教育事業等に関し、日頃感じていることや実際に事業に参加しての意見・提案などがありましたらお書きください。</p>

令和4年度 社会教育委員・公民館運営審議会委員

情報共有シート まとめ①

※第2回会議（8/26）資料として提出いただき、取りまとめを行ったもの。

（委員12人から提出あり）

1. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、課題や悩みなどがありましたらお書きください。	
1	<p>交流、活動制限が長引いて行動制限の日常からの脱却です。</p> <p>関係団体の新年度活動が始まっていますが、活動実績のない役員の交代もあり今後不安を感じています。関係機関や団体の連携も希薄になり、信頼関係の希薄化が心配です。役員の世代交代や活動成果の継続にも不安があります。</p> <p>ただ、このままではいけないとの認識があり、工夫が重ねられていることは希望です。地域で頑張っているマンパワーに期待です。</p> <p>学校との関係では積み上げた信頼関係がなくなるのではないかと不安です。先生方と地域の交流が途絶えたことの再構築、学校の働き方改革での地域との付き合い方の変化が見えていません。会って信頼関係を回復させるのが一番ですがままならずです。先生方の異動があればなおのことです。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校区の地域青少年育成会議が学校主体の取組となっており、形骸化している。（中学校区では、コロナ禍で会合・事業が約3年間行われていないが、同様の課題があると思われる。）そもそも地域の団体であるのに、学校が事務局となり教頭が全てを担うようになっている体制に問題がある。教員の働き方改革の観点からも行政による指導・支援が必要である。また、コーディネーターもPTA充て職の1年交替であるため、名ばかりで機能していない。市は、地域コーディネーターを委嘱するだけでなく、地域への支援と計画的な研修や養成研修をとおして育成を図っていくことが必要だと考える。（学校運営協議会組織も同様であり、学校にとってはメリットよりも多忙感の方が大きいと感じる面がある。） ・地域青少年育成会議活動報告書を見ると、多くの地域学校協働本部が10年以上前に設立された当初の趣旨である「青少年健全育成協議会」の内容の取組（子どもの健全育成・非行防止）に終始しているように感じる。「地域の教育の中心となる組織（活動）」、「学校を核とした地域づくりのための組織（活動）」、「学校運営協議会と連携した組織（活動）」への転換を図るために、中学校区単位から小学校区単位の地域学校協働本部への転換を図り、本会の目的を再考し、実践していくことが必要ではないかと思う。
3	<p>交響楽団、吹奏楽団、その他合唱等の音楽活動に関わっているが、共通の問題として、次世代のメンバーをどう呼び込み、確保していくかという点。</p> <p>昔に比べ、楽器演奏を好む人、歌う事を好む人等の人口はかなり増えているのだが、大勢で集まって何かをやるうとはしない。少数の同好の人だけで活動し、大勢で協働しようとする事に興味を示さない傾向にある。主に人間関係や、組織運営などに面倒</p>

	<p>くささを感じているように感じる。</p> <p>また年長世代は、今まで活動してきたやり方に固執し、なかなか変えたがらない。若い世代と年長世代、それぞれの考え方や意識をどう調整し、変えていけるかが、当面の課題としてある。</p> <p>交響楽団、吹奏楽団など、編制上どうしても大人数を要する活動は維持が大変。</p> <p>また、あくまで趣味の文化活動なので、色々なグループが独自に活動する事には何の問題もないのだが、お互いのつながりに乏しく、社会の中で、文化活動としての組織的な力を持たずにいる。</p>
4	<p>伝統芸能を特に子供たちに伝えていくことに力を入れてきましたが、ここ3年間ほどはコロナ感染拡大の為、募集することも難しい状況です。単発でおこなったワークショップはありましたが計画的に活動を再開するところまでは踏み切れないでいます。</p>
5	<p>・今後の活動について</p> <p>現状のままでは衰退してしまうので、幅を広げメンバーを増やしたい。</p> <p>・コロナ禍の活動</p> <p>依頼のキャンセル、中止などにより学校訪問ができないので、活動が中止になる。オンラインの活用も検討しないといけないこと。</p>
6	<p>開催日時等が仕事等と重なり、活動できないことがあること。開催日時等が仕事と重ならないものの、休息や余暇の時間に影響等があること（もある）などです。</p>
7	<p>令和3年度の「ふるさと未来づくり事業」（高士、三郷、清里歴史巡り）に参加した。熱心な活動・発表は高く評価できるが、社会教育委員としての立ち位置が自分の中ではっきりしないため、地域の事業を上越市にどうフィードバックすればよいのか考えが浮かばない。</p>
8	<p>社会活動ばかりでなく、結局は人の本質を高めることが組織の合意形成に必要だと思う観点から考えていることを以下書きます。</p> <p>最近、スポーツの世界ではインテグリティについて学ぶ機会が多いです。組織運営としてガバナンス、倫理、コンプライアンスを学び、ガバナンスコードに対応していかななくてはなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な経理処理、そのチェック機能強化 ・役員選考、選手選考の手続き ・情報公開と個人情報保護 <p>役員や指導者については</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメント・アンガーマネジメント ・ドーピング防止 ・多様性、差別教育 ・共生社会づくり <p>以上のことをひとりひとりが学ぶ機会の設置が必要と思われます。</p>

	任意団体であっても、その学ぶ機会が必要であると認知していかななくてはなりません。
9	○携わっている社会教育活動：縄文学校（中郷区） ○課題等 ・中心となって活動する会員の高齢化 ・中郷区の縄文文化具現化の取組を年間を通じて行っているが、地元住民の参加が少ない。
10	・イベント等の開催で啓発活動はできるが、仲間作りや意識高揚まではなかなか結びつかない。 ・ボランティアで行っている部分も多く、講師代や材料費等の費用弁償ができないこともある。

2. ご自身が携わっている社会教育活動に関し、活動を展開するうえで工夫している点や、課題解決に効果的と感じた取組などがありましたらお書きください。

1	<p>集会在規制されて情報共有の工夫で情報機器が活躍しています。</p> <p>ただ、個人差があり多様な人の集団では限界があります。個々に対応した手段で効果を上げていると思います。</p> <p>大人数での集会在制限される中で、担当が少人数で課題を検討し、積み上げていくやり方は組織の活性化になると思います。その成果を組織全体として情報共有することが執行部の課題になります。</p> <p>地域支援事業の取組で情報交流をする事例があり、各団体の交流連携を促進する大切さを感じています。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を契機に、小学校区青少年育成会議、PTA等の組織及び目的、事業内容等を活動実態やコミュニティ・スクールの趣旨の観点から見直しを図ったり、国や県の資料等をもとにした当事者意識を高めるための説明を繰り返し行ったりした。 ・学校HPやたより等による情報発信に努めている。今後は、学校からの情報発信だけではなく、当事者である地域住民からの発信にシフトできるようにしたいと考えているが・・・。 ・地域コーディネーターを生かす場を増やしている。
3	色々な事をやってきたが、これが効果的と言うべき決定打はなかなか見つからない。
4	以前に開催したワークショップでは、保護者にも参加、お手伝いをお願いして子供たちと共同作業で共通の話題を持っていただき、喜びや苦労を話題に出来るようにしました。小学生くらいまでは親、特に母親に関心を持って欲しい、褒めてもらいたい気持ちが大いなので家庭内でも会話の中に入れて下さると子供達は張り切って参加してくれるようでした。
5	まだ活動期間が短いので、我が事として活動できている。ただ、5年度、10年後を考えると体制や役割分担、会の方向性について話し合いを続けることが必要と思っている。目的、実施、結果について、意識して話題にするようにしている。

6	いまのところ課題解決に効果的と感じた取組はありません。
7	<p><エピソード></p> <p>過日、私の自宅がある地区公民館主催の出前講座があった。私の町内を含む近隣の3町内を対象とした出前講座で、高田東交番の巡査部長を講師に招いての防犯講座であった。会場は、私の町内の、町内会館であった。私は現在、町内会長をしているので、担当公民館主事から出前講座についての会場利用等のお願いがあった。快く受諾した。</p> <p>地元の町内会館が会場でもあり、大事な防犯講座でもあるので、一人でも多くの参加者があればいいと思い、昭和30年代初期のドキュメンタリー映画（私の町内が舞台となっており、現存している出演者もいる）の上映も併せてお願いした。（20分程度）公民館主事の見事な計らいで上映が可能となった。</p> <p>町内会長として、多くの町内の皆さんの参加を期待し、公民館からの案内（町内回覧）と併せて、町内会長名で講座の紹介、参加のお誘い等を含め案内した。</p> <p>当日は、他の2町内からの参加者と、私の町内からの参加者とで、多くの参加者があった。私の町内からは、夫婦での参加も3組あり、防犯講演と懐かしい映像で、参加者一同の気持ちが和むような雰囲気になった。</p> <p><今後に生かせること></p> <p>私が町内会長という立場であったことが、このような結果となったが、地域に住む社会教育委員としての協力を得ていく上で、以下のようなことがあればいいとも思う。（草の根的なかかわり）</p> <p>地区公民館のエリアに居住の社会教育委員には、公民館からの案内が別途配布されると協力が得られるのではないかと。（講座等の参加も含めて）なによりも、公民館主事と十分な面識をもつことができるのではないかと。</p> <p>公民館主事は、地域の社会教育委員から協力を得ようとするアクションを起こしてもいいのではないかと。また、町内会長とのつながりを大事にしてほしい。</p>
8	今年度は、ここまで別の忙しさがああり、社会教育事業に関わることができていないので、特になし。
9	まずは専門の講師をお招きし学び、グループでの討論から、自己の意見の確立を諮ります。自己の考えを突き詰めていく方法を学ぶ機会を作ります。ディベートも自己の意見の確立を諮るにはいいかもしれません。
10	<p>○効果的と思われる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動のPRを兼ねた縄文まつり（年1回） <p>R4年度は中郷区夏まつりの参加イベントとして縄文まつり開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中郷区さとまる学校との連携により、中郷小4年生の総合学習に協力 ・さとまる通信（紙面）を通じた縄文学校の活動紹介
11	・子ども向けの活動については、保護者に活動の様子が伝わるよう写真集や振り返りシートのフィードバックを行い、家庭での共通話題につなげてもらえるように工夫している。

<ul style="list-style-type: none"> ・大人向けのイベントでは、興味がある人にはその場の活動だけでなく、関連する事業や講師などの紹介を行い、人やグループの輪がつながるようにしている。継続的な参加により、単なる参加者から指導者・主導者へと発展したこともある。

3. 社会教育委員として、市の社会教育事業等に関し、日頃感じていることや実際に事業に参加しての意見・提案などがありましたらお書きください。

1	<p>コロナ禍から抜けて新しい日常がどんな形になるのか期待と不安です。</p> <p>行動規制が従来の行事のあり方、考え方を検討する機会になり新しい芽が出ることに期待をしています。世代交代や新たな目標を図れる機会でもあります。</p> <p>地域組織や自治会も世相、状況に合わせた対応が求められますが、簡単には変えられません。日々の生活に関わること、防災、福祉に関しては担当の役員さんの苦勞が見えます。行政の在り方も現状把握のうえで対応をお願いしたいです。</p>
2	<p>○社会教育課の事業に参加・見学して</p> <p>(1) ふるさと未来づくり事業(諏訪地区)…「諏訪の里“魅力再発見”」6月10日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、複数回にわたって地域住民と小学生の交流が図られ、二貫寺の森を中核にした学びの場ができており、諏訪区の自然や地域への思いを深める活動になっていると感じた。 ・地区公民館が地域と学校を上手く結び付けており、地区公民館と学校の連携が上手くとれていることの表れであると感じた。 ・地域の子ども及び地域の未来を共に育んでいこうとする地域住民の自治活動の気概を感じた。また、小学校にとっても地域とともに特色ある教育活動が展開される互恵的な好事例であると感じた。 <p>(2) ふるさと未来づくり事業(大島地区)…「体験初めて講座“空手”」6月25日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が自分たちでやりたいことを主体的に行えるような支援がなされているため、参加申込率も高い。地域青少年育成会議と保護者会、事務局の連携がよくとれていると感じた。 ・保育園の保護者が園とは異なる場所で異なる目的で集うことによって、保護者同士のつながりが広がったり深まったりすることは、地域づくりにつながっていくと感じた。 ・青少年育成会議の事務局は、これまで中学校に置かれ地域の夏祭りを一緒に行うなどしていたが、学校や役員の負担感が大きく、疲弊していたという。そこで、保護者を中心とした組織に転換しながら、保護者がやりたい活動をアンケートも基にして実施していくことになった。今年度は保育園児と保護者を対象とした「空手」「ダンス」「切り絵」、小中学生と保護者を対象とした「地域探検」が計画されている。青少年育成会議の事務局は、地域に置くべきものであるが、上越市では「当面の間、学校に置くことができる」としている。当面が10年以上になり、形骸化したり、一部の人だけの活動であったり、地域の主体性のない取組になったり、学校の負担感だけが募る活動になったりしている地域青少年育成会議も多い

	<p>と感じる。上手く機能していない会に対しては、行政が指導・支援を行い、「大島っ子を育む会」のように地域の実情に合った組織に転換していかなければ、地域づくりに参画する人の輪を広げることにはできないと考える。コロナ禍を契機に活動や組織の見直しを図り、新たな地域青少年育成会議に転換するための個々の地域青少年育成会議への働きかけが重要であると感じた。</p> <p>(3) 謙信KIDSプロジェクト…「城と武将③ “高田城址探検”」 7月23日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> 謙信KIDSプロジェクトは、子どもたちが多様な選択をできるコースが設定されているのがよい。本講座も歴史好き、城好き、武将好きの上学年の子どもたちにとって知的に楽しめる内容であった。 「城と武将」では、3回の講座で市内の3か所の城(跡)を巡り、郷土の歴史を知り、文化財としての特色ある3か所の城の価値を学べるよいプログラムであると思った。ふるさとを誇りに思う気持ちの醸成につながっていくと感じた。 毎年、応募者が多く人気の講座は抽選になっていると聞く。子どもたちの学校外の体験活動の充実のために、今後の事業の継続・発展を期待する。なお、学校毎に講座参加者名を周知していただけると、子どもの学校外の活動状況を知ることができ、連携につながられる。
3	<p>少子化に伴い、学校単位でのクラブ活動の継続が難しくなり、子どもたちがやりたい事をやれない状態が広がっている。</p> <p>また、指導役の教員の資質や、労働環境の問題もあって、改革が求められている。一部、外部への委託が始まるようだが、まさに社会教育組織をどう形成、育成するかという問題だと感じています。</p> <p>自身に関わる音楽活動にしても、小、中学生で歌いたい、演奏したいという子どもたちに、その機会を提供できるような組織づくり。あるいは、高校生になり、自身の活動場所を求めて自発的にグループを作り活動し始める生徒たちに対し、その活動をサポートできるような組織をどう作っていくか。</p> <p>お小遣いを出し合って、公民館などの会場を借り、そこで活動はするものの、対外的に何かをしようとする、どうしても大人の力を借りざるを得ない場面が出てくる。</p> <p>あるいは、活動に関わる指導、講習受講の機会の提供など、地域社会として、サポートしてあげられるようなネットワーク構築など、考えるべき事は多い。</p> <p>現在、オーレンプラザの運営に関わる立場で、場と機会の提供を画策しているが、それに留まらず、さらに広げていきたいと思っています。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> 私が携わっている活動は伝統芸能という少数派の活動です。市の教育事業としてはより多くが集まる人気事業を開催されたいとは思いますが、少数だからこそ支援が必要です。細く、長く続けていける講座を応援して頂ければありがたいです。(短期間に結果をだせない活動です。) 謙信KIDSプロジェクトの講座に祇園祭を学ぶ講座を作ってはいかがでしょう。県の無形民俗文化財の指定を受けた行事ですが、詳しい内容を知って参加している子供たちは少ないと思います。屋台の装飾品も色々な意味が込められており、学んだ上

	で参加したならば、将来を背負っていく人材が増えるのではないかと思います。
5	主任児童委員の活動の一つとして、板倉区内の小・中学校で開催される『人権を考える講話会』に出席してきたが、地域団体や町内関係者の出席が少ないことを残念に思ってきた。学校との懇談会や学校運営協議会で保護者の出席を促してほしい旨の要望をしている。また、町内会の会議などでも（人権の観点から）“今この発言は…？”と思うこともある。啓発図書やビデオの貸出を含めて広く伝えていく必要性を感じている。
6	委員をさせていただき 2 年目ですが、まだ全体が理解できません。多くの活動をしてきましたが、市民に「社会教育」の意識がないのが現状です。（私も知りませんでした。）長い歴史があることも知らなかったです。何か提案したいのですが、勉強不足ですみません。
7	上越市は様々な魅力的な社会教育事業等を展開している／展開してきており、その多くの蓄積もあることと感じています。 そのように感じながらあえて加えるとしたら、様々な魅力的な社会教育事業等の横断的展開ができるのではないかと／してもよいのではないかとということです。もしかしたら、すでにされているのかもしれませんが、もし、そうだとしたら、横断的展開に関する情報発信のさらなる工夫が求められるのかもしれませんが。 また、社会教育事業等だけでなく、上越市の社会教育課だけでなく他の課の事業内容等との連携や横断的展開もできるのではないかと感じています。
8	「ふるさと未来づくり事業」には素晴らしい実践が数多くあるので、大きな会場で発表の場を設けたらどうか。そうすることが地域で活動する団体が刺激しあい、高め合うことにつながるのではないかと。
9	社会教育事業には地域の NPO 法人などに業務委託して、地域のニーズを取り入れ新たな参加者の獲得を目指すことが必要である。 そして、もう一つ、社会教育委員としてというよりは長く生きた市民の一人として、社会教育事業ばかりでなく、すべての市の施策・事業が「若者の上越市での定着」に結びつくように考えてほしい。若者を生かす取り組みを考えていきたい。 例えば公民館事業や地域のお祭りでの会議やスタッフを、中学生卒・高校生卒・大学生卒を作り、当たり前のように活躍する場を作ってみたらいいのではないと思う。その際に大人は見守りの役目を率先してする優しい大人を目指したい。
10	広報上越に掲載される社会教育事業（趣味講座等）のほとんどが旧上越市を会場として開催されている。遠方のため参加するとなると、よほど関心がない限り気軽には参加できないのが実情である。対象となる市民の数や会場確保等で中心部に集まってしまうのは仕方がないことと半ばあきらめている。 区で催される事業には関心を持ち、積極的に参加したいと考えている。
11	・6月24日の上社連総会・研修会では、糸魚川や妙高の委員の方々と久しぶりの対面形式でお話することができ、非常に有意義な時間であった。個々が取り組んでい

る活動や悩みを共有することで、同じ目線での会話がどんどん広がった。オンライン化も進んではきたが、あらためて対面で行う会議やワークショップの力を感じた。

- ・同様に、6月29日に開催された社会教育委員等研修会も、長岡市で対面形式にて行われた。こちらは全体会場を設けず、分科会毎の会場をオンラインで結ぶという形で行われたが、今までの講義形式ではなく、話題提供から分科会での検討・発表という新たな実施形式が新鮮だった。分科会では3～5人程度のグループ討議を行い、また発表も仮装やグッズを多種用意するなど、お互いが話しやすく、伝えやすい環境を用意していた。参加者側の社会教育委員や市の職員は戸惑いを隠せない部分もあったが、日々の活動に取り入れられそうな手法もあり、参考になった。また、分科会での事例発表をインターネットで公開するなど、積極的に情報発信を行っている。上越市からは4名の参加であったが、ぜひ多くの人に参加していただきたい研修会と思う。

【現状と課題】

（多様な学習機会の提供）

- 市民の価値観の多様化や少子高齢化に伴う人口減少、担い手不足が著しい。また、多様化する人権問題など、課題や地域学習に対して、各種団体等と連携・協力しながら解決を図る社会基盤の構築が求められている。
- 生涯を通して学び、活躍できる担い手となるよう、個人の要望に応える学習だけでなく、地域の魅力ある資源を活用した地域づくり等の社会の要請に基づく学習への取組のほか、参加者の固定化及び事業のマンネリ化に対応した取組が必要である。

（地域ぐるみの教育の推進）

- 地域社会の連帯意識の希薄化などにより、家庭や地域における教育力が低下している。
- 22の地域青少年育成会議では、各地域の特色に応じた活動を行っているが、学校との関係や事業のあり方に課題を持つ地域もあることから、各地域の状況に応じた支援が必要である。また、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の高齢化・後継者不足が生じている。
- 義務教育終了後、高等学校に進学した生徒の中には不登校や中途退学で孤立し、ひきこもりになる状況が見られる。未来ある若者が社会から孤立しないように寄り添い、自立に向けての活動を推進する必要がある。

（施設管理・整備）

- 地区公民館(28)、公民館分館(17)、生涯学習センター等(13)の施設及び専門的な機能を有する白山会館、星のふるさと館、科学館、野外活動施設、図書館は、総じて施設や設備の老朽化が進行しているため、今後、多額の修繕費の発生が懸念される。
- 施設の中には、耐用年限の経過や老朽化が進む現状から、長寿命化対策が困難な状況の施設がある。
- 施設の規模が大きいなどの理由から、譲渡が難しい施設は、地域に根ざした活動の場がなくならないように配慮し、施設管理運営の在り方を見直す必要がある。
- 学習機会を提供する場として、各施設の役割を明確にしたうえで、適正な維持管理に努めていく必要がある。また、ウィズコロナ時代を見据えた学ぶ環境の整備が求められている。

【目指すべき姿】

学びを通じた人づくり、地域づくりを推進する。

【社会教育課の取組方向（重視する視点）】

【取組方向①】 多様な学習機会の提供

- 参加者同士が学び合い、互いに高め合う機会と場を提供するとともに、学習の成果が幅広くいかされるよう、学びが循環する地域づくりを推進する。
- 多様な学習ニーズに対応するため、地域の団体及び各種教育関係機関等と連携・協働を図る。

【取組方向②】 地域ぐるみの教育の推進

- 健やかな子どもを育成するため、地域と家庭が連携した教育力の向上を図る。
- 地域青少年育成会議や地域団体の活動を支援するとともに、持続可能な青少年教育活動体制を整えるため、公民館との連携等の仕組みづくりを進める。
- 地域学校協働活動推進員の取組を周知し、地域全体で子どもの成長を支える意識の創生と後継者の確保に努める。
- 義務教育終了後も切れ目のない若者への教育的支援の取組を進め、若者の居場所（Fit）を中核とする若者及び保護者への支援を充実させる。

【取組方向③】 施設管理・整備

- 公民館をはじめとした社会教育施設について、各施設の現状や利用実態を把握し、その「役割」と「機能」を明確にしたうえで、学習機会や活動する場を提供する。
- 各施設は、公の施設の適正配置計画の取組方針に従って適正な管理に努めるほか、必要に応じて関係者との協議を丁寧に進めながら適正配置に取り組む。

【令和4年度の重点事業】

多様な学習機会の提供

【事業内容】

- 家庭・地域の教育力向上
 - ・全ての地区公民館において家庭教育支援講座の実施
- 「地域課題解決学習」の推進
 - ・人権意識を高めるための学習機会の充実
 - ・地域の団体とともに地域づくりの輪を広げるため、「ふるさと未来づくり事業」を各地区公民館で継続する。
- コロナ禍における事業の検討
 - ・オンライン化に対応する職員の資質向上や幅広い年齢層の事業参加につながる取組を通じて、人づくり、地域づくりを推進する。

【第6次総合計画】

1-1-1 人権に関する意識啓発の推進、6-2-1 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進-2 公民館活動を通じた人づくり

地域ぐるみの教育の推進

【事業内容】

- 青少年の育成支援活動の推進
 - ・地域青少年育成会議への訪問を通じた各地域の状況把握と課題に応じた支援
 - ・地域青少年育成会議と公民館との事業連携の推進
 - ・市ホームページ等を通じた地域青少年育成会議や地域学校協働活動推進員の活動周知
- 若者育成支援の取組の充実
 - ・若者の居場所（Fit）の周知と活用の促進
 - ・親の会や研修会の開催による保護者支援の充実
 - ・関係機関・団体と連携した支援の推進

【第6次総合計画】

6-1-2 学校教育環境の整備-3 地域ぐるみの教育の推進

施設管理・整備

【事業内容】

- 身近な学びの場の適正管理と適正配置の取組推進
 - ・感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る。
 - ・建物と機能を分離した考えの下、各施設の役割を明確にし、現状維持又は適正配置の取組を進める。
 - ・建物及び設備の大規模改修や箇所付け修繕、緊急修繕の実績を整理し、次期財政計画に漏れなく反映させるための準備を進める。

【第2次総合教育プラン】

5-1 人づくり、地域づくり充実のための支援

わくわくを未来へ

上越市教育大綱

 上越市

学ぶって、カッコいい。

学び続ける 自分のために 何かのために

認めあう 一人ひとりのチャレンジを

心動かしながら このまちの物語を つくり つないでいく

上越市は、あなたのわくわくする学びを
支えていきたい。

上越市教育大綱に添えて

この大綱では、上越市の教育の振興に関する施策の根本におくものを表します。

教育のまなざしの先には学ぶ人がいます。教育の振興は、いわば学びの振興です。

本文前段の「学ぶって、カッコいい。…」は誰かのつぶやき、後段は市からのメッセージです。学びを振興するうえで大切にしたいことをこの形に表現しました。

心が動く、熱を持つ。そうした学びを続ける一人ひとりが、多様な個性を尊重し共感しあうことで、そのエネルギーは増幅されます。生涯続く営みである学びには、心豊かな人生を支え、社会をよりよい方向へ変えていく力があると信じます。

越後の都として栄え、文教都市としての歴史を刻むこの地を舞台に、老いも若きも、日常のそこかしこにある気づきや発見を教えあったり、構えることなく新たなことにチャレンジしたりする学びの景色が、いっそう広がることを期待しています。

令和4年7月15日

上越市長 中川 幹太

令和4年度 社会教育委員に関する会議等日程一覧

○現段階での予定になります。新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、会議・行事の日程・内容が変更または中止となる場合がありますのでご承知おきください。

○社会教育委員の皆様へは、その都度ご案内させていただきます。

期 日	会 議 等 名	会 場 等
【済】 4月27日(水)	第1回社会教育委員・公民館運営審議会委員会議	直江津学びの交流館 (オンライン会議)
【済】 6月24日(金)	上越地区社会教育委員連絡協議会総会研修会	上越地域振興局
【済】 6月29日(水)	新潟県社会教育委員連絡協議会社会教育委員等研修会	長岡市立劇場・さいわいプラザ
8月26日(金)	第2回社会教育委員・公民館運営審議会委員会議	上越市教育プラザ (オンライン会議)
10月20日(木)	生涯学習現地研修会	高田町家周辺
11月9日(水) (予備日12月14日(水))	社会同和教育市町村巡回研修会	能生生涯学習センター
11月16日(水)	県社会教育研究大会三条大会	三条市中央公民館大ホール
2月中旬予定	第3回社会教育委員・公民館運営審議会委員会議	上越市教育プラザ

< 関連事業等 >

- ・10月26日(水)～28日(金) 第64回全国社会教育研究大会広島大会 (広島県広島市)
- ・11月10日(木)～11日(金) 第53回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会 (山梨県甲府市)